

令和6年度 事業報告書

社会福祉法人 まほろば福社会

目 次

○ 法 人 本 部	1
○ ワークステーションやじろバえ	3
○ 障害者支援施設 翼	9
○ さ くら さ くら	16
○ ひらり・天領の杜	23
○ 相談サポートまほろば	30
○ 地 域 支 援 局	32

令和 6 年度法人本部事業報告書（案）

I 事業概要

- 1 事業推進のために大きく貢献した職員（各事業所 1 名）に対して 7 月と 1 月に報奨金を支給した。
- 2 特定技能制度を活用した外国人労働者雇用に向け、株式会社 ONODERA USER RUN と契約を締結した。
- 3 令和 6 年度社会福祉法人指導監査を 1 月に受検した。
- 4 理事会 3 回、評議員会 2 回を開催した。

II 事業の状況

1 事業進捗状況

(1) 障害福祉サービス等報酬改定、物価高騰への対応

4 月から報酬改定が実施され、大きな変更点として生活介護の算定基準がこれまでの 1 日単位から各利用者の実利用時間に変更となった。各事業所において経営を意識した取組みの結果、法人全体では約 9%の増収となった。一方で、物価高騰により食材や水光熱費が増額している。今後も各事業所での価格競争によるコスト削減の取組みや価格高騰対策緊急支援金などの補助金も活用していく。

(2) 法人 33 周年感謝の集い

約 5 年ぶりに法人関係者が一同に集う行事として「感謝の集い」を企画し、総数 370 名にご参加いただき、盛大に実施することができた。利用者、ご家族からも好評をいただき、笑顔あふれるイベントとなった。

(3) 障がい者スポーツ普及推進への取組み

地域支援局での障がい者スポーツの取組みの他、宮崎県障がい者スポーツ協会の依頼を受け、フットソフトボールの九州大会等に職員ボランティア派遣と移動に要する福祉バス及び福祉車両を提供し、障がい者スポーツの普及推進のため取り組んだ。

(4) Be Fine 老朽化に伴う外壁改修工事

令和 6 年 5 月に着工し、3 カ月かけて改修工事を実施した。劣化が著しかった外壁やシーリングも修繕され、快適な住環境にすることができた。

(5) 人材確保とキャリアパス制度の導入

令和 6 年度は、年間を通して 7 名を正職員として新規採用し、1 名を契約職員から正職員へ登用した。

階層別研修は管理職（副所長・課長）、中堅職（主幹・係長）研修と新任職員研修をそれ

ぞれ年3回実施した。

(6) 法人独自の福祉サービスの創出

宮崎県特別教育支援課より依頼を受け、県立高等学校普通科に在学する肢体不自由の生徒の修学旅行同行支援に職員2名を派遣した。宮崎県として初めての取組みであったが、同行中は事故等もなく、生徒、学校関係者にも喜んで頂けることができた。

Ⅲ 職員研修関係

- 階層別研修（管理職・中堅職研修、新任職員研修）
- 国際福祉機器展
- 人事・労務管理研修（本部、さくら担当者）

Ⅳ 行事関係

- 法人33周年記念行事「感謝の集い」
- 永年勤続表彰（5名）
- 報奨金（10名）
- 福利厚生支援金（職員の子どものスポーツ、文化活動における全国・九州大会出場支援金）

チーム名	出場大会	成績
日章学園中学校	全日本少年軟式野球大会	第3位
瓜生野ソフトボールスポーツ少年団	全日本少年男子ソフトボール大会	ベスト16
日章学園高等学校	全日本ビーチバレーボール大会高校男子選手権大会	
生目柔道	九州少年柔道大会	
宮崎南高等学校	全国高等学校総合文化祭	
宮崎南高等学校	全九州高等学校総合文化祭	グッドパフォーマンス賞
宮崎南高等学校	全国高等学校なぎなた選抜大会	

V 法人PR動画の作成



VI 決算状況（別添決算書参照）

令和6年度 やじろべえ事業報告書（案）

I 事業の概要

- 1 「障がいのある方の『働く・くらす』をサポートする」体制を構築しながら、バランスの取れた社会づくりを目指しワークステーションやじろべえ、ヘルパーステーションやじろべえ、Yumeハウスやじろべえ間の連携も順調に継続できている。
- 2 就労継続支援B型事業の新規利用者は7名であったが、そのうち生活介護事業所への転籍者が1名、その他3名がやじろべえの作業に適合せず退所となった。
- 3 就労支援においては、工賃アップを最大の目標に掲げ利用者・職員が一体となって取り組み、就労支援事業の売り上げは前年度と比較すると600万円ほど増えた。
前年度と比較し約3,200円増の31,527円となった。
- 4 設備整備関係では、安心安全な送迎サービスの取り組みにて送迎車両3台の入れ替えをリースにて実行し座席にゆとりをもって利用者が快適な通所が行えるようになった。
- 5 BCP（業務継続計画）関連や虐待防止関連では、計画に沿った各委員会の取り組みにより、法に定められた運営指導に基づき適正な研修・訓練の活動に定期的に取り組むことができた。

II 事業の状況

1 就労継続支援B型事業

(1) 事業実績

	令和6年度		令和5年度	令和4年度	
	目標値	実績値	実績値	実績値	
利用者定員	40人	40人	40人	40人	
登録利用者数	48人	45人	45人	43人	
開所日数	265日	263日	265日	253日	
一日平均利用者数	40人	34.5人	34.0人	34.2人	
利用者延べ人数	10,680人	9,074人	9,001人	8,654人	
介護給付費収入 (利用者負担金含む)	78,000,000円	80,019,385円	73,744,750円	70,285,170円	
工賃支給総額	12,500,000円	13,089,915円	11,532,824円	10,984,295円	
就労支援 収入	印刷	27,400,000円	34,938,248円	28,483,315円	23,781,736円
	請負	5,000,000円	3,878,497円	4,326,659円	3,553,575円
平均工賃月額	28,500円	31,527円	28,295円	22,013円	

(2) 事業成果と課題

- ① 昨年度と比較して一日平均利用者数、登録利用者数は変わらず 45 名となった。引き続き相談支援事業所や市の関係機関との連携を図り、新規利用者の獲得に努めていく。

定員	期首	新規契約	退 所					期末
			就職	高齢化等	入院	他所	その他	
40 人	42 人	7 人	0 人	1 人	0 人	1 人	2 人	45 人

- ② 平均工賃については、計算方法が「月ごとの工賃支払額の総額÷月ごとの工賃支払対象者の総数」から、「年間工賃支払総額÷（年間延べ利用者数÷年間開所日数）÷12 か月」に変更となり 31,527 円となった。

- ③ 一般印刷及びアパレル印刷では、能登復興支援の継続や大手企業からの受注依頼に対応し内製化の取り組みにより継続して売上を伸ばすことができた。度重なる原材料等高騰の影響が大きく苦慮した部分もあるが、経費節減や利益率を減少させるようなミス削減への取り組みにて安定を図ることができた。



オフセット印刷機



オンデマンド印刷機



封筒専用印刷機の導入



多種類の印刷物を内製のみ対応



アパレル印刷（大手企業からの受注が増加）

- ④ 軽作業については、(株)兼重青果の千切り大根の選別・袋詰め作業の他、ニホンバイオフルーツ製造(株)からの請負業務を受注することができた。



千切り大根 袋詰め作業



健康サプリ 梱包作業



リンガーハット除草作業

- ⑤ 令和6年2月中旬からスタートした全国身障協「SAVE NOTO! Tシャツ支援プロジェクト」は、1年経過した現在でも全国に支援の輪が広がりやじろべえでのプリント及び発送業務を通して、被災された障害者支援施設等の復旧支援金事業に参加することができている。

今年3月末までの納品枚数が5,734枚、支援金が4,013,800円、やじろべえの売上金が9,969,400円となった。



シルク印刷のレーンを増設



復興支援Tシャツ



復興支援の新アイテム追加

2 居宅介護事業・同行援護事業・外出介護事業・シェアハウス（Yumeハウス）

(1) 事業実績

居宅介護事業	令和6年度		令和5年度	令和4年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	10人	9人	9人	9人
介護給付費収入 (利用者負担含む)	60,000,000円	67,369,050円	59,058,020円	46,375,378円

同行援護事業	令和6年度		令和5年度	令和4年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	—	1人	1人	—
介護給付費収入 (利用者負担含む)	—	102,680円	13,660円	—

外出介護事業	令和6年度		令和5年度	令和4年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	－	8人	8人	8人
受託事業収入	－	153,280円	112,020円	163,370円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護事業は、前年度と比較し約830万円増の67,369,050円となった。
- ② Yumeハウスやじろべえでは、介護保険への移行によって「ともしび」へ転居されたが、宮崎市障がい者総合サポートセンターと他相談支援事業所との連携により空床を防ぐことができた。
- ③ 今後の課題として、体調不良による入院等を防ぐために利用者の健康管理に十分注意した支援を行っていくことと、ヘルパーの高齢化及び人手不足が深刻な問題であるため、人材確保が挙げられる。

Ⅲ 感染症対策

- 1 インフルエンザワクチン接種については、希望する利用者・職員に対し12月に実施（嘱託医）を行いまん延防止に努めた。
- 2 新型コロナウイルス感染症関連では、他入所施設利用者からの感染が拡大し多数の罹患者が発症し日頃から感染症対策を徹底していたが感染拡大を防ぐことができなかった。
- 3 全職員を対象に宮崎市保健所の協力を得てリモートによる出前講座にて「食品衛生」についての研修を9月に実施した。年明けの1月には利用者参加の手指消毒・マスク装着講座を開き感染対策に取り組んだ。



令和6年9月 感染症予防・まん延防止 出前講座



令和7年1月 利用者も交えての感染症対策

IV 非常災害対策・BCPの取り組み

- 1 総合防災訓練や火災、地震、水害による避難訓練などについては年間計画に基づいて実施した。また、新たな試みとして防災備蓄倉庫を設置し非常災害時の備えとして必要最低限の備蓄品の確保をおこなった。
- 2 BCP関連ではBCPへの共通認識・理解度を深めるため安全マップを元に危険個所の洗い出しを再度実施し確認をおこなった。



備品の整理



新たに倉庫設置



非常時用の備蓄整備



側溝の整備



令和6年6月 BCP研修
(周辺の危険区域等の見直し)



令和6年7月 BCP訓練
(非常時用の簡易トイレ作成)



令和7年3月 避難訓練
(消火器の使い方練習)

V 職員研修関係

- 1 事業所内研修では外部より専門の講師を招き感染症研修のほか、虐待防止及び身体拘束関連の研修を実施し全職員でサービスの質の向上に取り組んだ。
- 2 事業所外研修は、宮崎県人権講座、サービス管理責任者更新研修、虐待防止研修のほか、全国社会就労センター長研修、宮崎県社会就労センター職員研修Ⅰ・Ⅱ、施設長研修に今年も参加することができた。



令和6年7月 虐待防止研修

VI 地域貢献活動及び行事関係

地域貢献活動の一環として行っている地域清掃活動や焼肉会・芋煮会・社会見学といったリフレッシュ行事を季節ごとに取り組み、今年度はやじろべえ利用者の皆勤賞表彰式も実施しモチベーションアップに繋がる取り組みをおこなった。



皆勤賞表彰



焼き肉会



みやざき健康福祉祭り（出店）



社会見学（コカ・コーラ工場）



初詣（稲荷神社）



芋煮会



出張昼食（屋台骨）



お花見会（西都原古墳）



地域清掃



防災食の日

VII 決算状況（別添決算書参照）

令和 6 年度 障害者支援施設 翼 事業報告書（案）

I 事業の概要

- 1 利用者から希望の多かった日帰り旅行を 10 月、11 月に実施した。行き先は利用者を選んでいただき、4 コース（大淀川学習館、生駒高原、コカコーラえびの工場、志布志イルカランド）に分かれてお出かけをした。今後も利用者のニーズに沿った魅力ある施設行事を実施することで、利用者と職員共に笑顔あふれる時間を共有したい。
- 2 権利擁護については、3 月に職員による虐待が疑われる事案が確認され、行政へ通報を行った。このような事態が発生し、利用者やそのご家族、多くの関係者の皆様に多大なご心配とご迷惑をおかけすることとなった。今回の件を受けて、虐待防止委員会を開催し、二度と同じことを繰り返さないために、再発防止策及び業務改善策を検討して職員一丸となり取り組んでいる。今後は、職員一人ひとりが今回のことを肝に銘じ、翼の志である「支援を必要とする人のそばにいたいこと、その心に寄りそうこと」を忘れず、信頼回復に努めていく。
- 3 これまで理学療法士や言語聴覚士による専門性を活かしたりリハビリを実施してきたが、11 月より新たに作業療法士によるリハビリを開始した。専門職によるリハビリが充実したことにより、利用者のリハビリに対する意欲も向上しつつあり、楽しみながら取り組まれている。
- 4 職員の基本的な介護技術の向上を図るため、年間を通して様々な研修を実施してきた。委員会を中心に、11 月に外部講師による褥瘡予防、12 月には業者によるとろみ剤の研修を行い、基礎知識を学ぶ機会となった。
- 5 利用者への安心・安全な支援の提供と職員の介護負担軽減を目的として、移乗サポートロボット Hug を導入した。

II 事業の状況

1 入 所

(1) 事業実績

		令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
		目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員		32 名	32 名	32 名	32 名
登録利用者数		—	—	—	—
開所 日数	生活介護	260 日	261 日	260 日	261 日
	施設入所支援	365 日	365 日	366 日	365 日
一日平均利用者数		31.3 名	30.5 名	30.5 名	30.8 名
利用者 延べ人 数	生活介護	8,280 名	7,936 名	7,957 名	8,033 名
	施設入所支援	11,454 名	11,077 名	11,130 名	11,229 名
介護給付費収入 (利用者負担金を含む)		209,900,000 円	211,066,393 円	209,471,665 円	209,397,325 円

(2) 事業成果と課題

- ① 入退所状況では、4名の利用者が退所された。退所理由は、手厚い医療的な支援が必要となった方が3名、死去された方が1名であった。また、新たに3名の方が入所された。今後も相談支援事業所をはじめ関係機関への広報活動や連携を図りながら入所希望者の確保に努めていきたい。
- ② 利用実績では、1日平均利用者数 30.5 名となり目標値には届かなかった。要因としては、長期入院者がいたこと、退所後に空床となった期間が長かったことが挙げられる。入院日数を減らすために、日頃から利用者の健康管理に努め、リハビリや日中活動等への参加を促し、職員の意識や専門性を高めるための研修を行っていきたい。
- ③ 介護給付費収入は、令和6年度報酬改定により新たに新設された入浴支援加算や通院支援加算を取得したが、利用実績の減少や延べ入院日数の増加のために昨年度とほぼ同じ収入となった。
- ④ ご家族との時間を大切にしてもらうために、利用者やご家族から要望の多かった面会や外出、外泊をしていただいた。

2 短期入所

(1) 事業実績

	令和6年度		令和5年度	令和4年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	3名	3名	3名	3名
登録利用者数	23名	23名	21名	16名
開所日数	365日	365日	366日	365日
一日平均利用者数	1名	1.2名	0.8名	0.2名
利用者延べ人数	360名	475名	289名	105名
介護給付費収入 (利用者負担金を含む)	2,200,000円	4,524,315円	2,534,524円	1,062,076円

(2) 事業成果と課題

- ① 新規利用者 11 名と契約し、登録利用者数は増加した。
- ② 利用実績では、一日平均利用者数と利用者延べ人数共に増加した。要因としては、新規利用者をはじめ毎月定期的に利用される方が増加したことや日中一時支援から短期入所利用に繋がった利用者がいたことが挙げられる。入所希望者を確保するためにも、まずは翼を知っていただくために今後も積極的に受け入れを行っていきたい。
- ③ 介護給付費収入は、昨年度と比較すると利用実績の増加に伴い 198 万円の増収となり、目標値を上回ることができた。令和6年度報酬改定により新たに新設された重度障害児・障害者対応支援加算を取得したことも要因の一つと考えられる。

3 日中一時支援事業

(1) 事業実績

	令和6年度		令和5年度	令和4年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	2名	2名	2名	2名
登録利用者数	10名	10名	8名	7名
開所日数	365日	365日	366日	365日
一日平均利用者数	0.7名	0.9名	0.5名	0.3名
利用者延べ人数	252名	342名	197名	135名
介護給付費収入 (利用者負担金を含む)	1,080,000円	2,106,350円	1,212,716円	714,622円

(2) 事業成果と課題

- ① 新規利用者2名と契約し、登録利用者数は増加した。
- ② 利用実績では、一日平均利用者数と利用者延べ人数共に増加した。要因としては、新規利用者をはじめほとんどの利用者が毎週定期的に利用されていることが挙げられる。まずは翼を知っていただき雰囲気慣れていただくため、今後も積極的に受け入れを行っていきたい。
- ③ 介護給付費収入は、昨年度と比較すると利用実績の増加に伴い89万円の増収となり、目標値を上回ることができた。

Ⅲ 感染症対策

- 1 感染症発生時に誰もが迅速に対応できるように、年間を通して事業継続計画に沿った研修や訓練を実施した。また、備蓄品の保管場所や管理方法についても見直しを行った。
- 2 3月に宮崎県立看護大学の『障がい者（児）入所施設における生活の場に応じた感染対策強化事業』への調査協力を行った。今後も、感染対策に対する正しい知識（標準予防策・環境整備・発生時の対応）の習得や研修、事業継続計画に沿った訓練を行っていく。
- 3 新型コロナウイルス感染症については、8月に利用者2名利用者が罹患した。また、12月から1月にかけてインフルエンザA型に利用者15名、職員4名が罹患した。

Ⅳ 非常災害対策

- 1 8月に発生した地震により、非常災害時における職員の参集連絡表を見直し新たに作成をした。また、非常災害時における事業継続計画の発動基準や参集基準の見直しを行った。
- 2 8月の台風10号の際、夜間に数分間の停電があったが、すぐに非常用自家発電が作動したため不安なく安心して過ごすことができた。また、備蓄品の保管場所についても見直しを行った。
- 3 9月には地域住民の方に参加いただいた総合防災訓練を実施した。避難場所として翼南側駐車場が指定されているが、碎石のため安全に避難誘導ができないとのご意見をいただいた。

月	内 容	月	内 容
4月	・防災訓練 (火災昼間想定) ・消防用設備点検	9月	・総合防災訓練 (跡江地区住民参加)
5月	・避難通路点検及び清掃	12月	・防災訓練(地震)
6月	・救命救急法	3月	・避難ルート確認
7月	・防犯に関する研修		

V 職員研修関係

- 1 職員の資質向上、自己研鑽のための資格取得に向けての研修への参加については勤務調整をする等して支援を行った。
- 2 委員会を中心として、障がい者権利擁護・虐待防止研修、感染症対策研修などの研修を実施した。
- 3 県障害者支援施設協議会や県外で開催される研修にも参加して、他施設の職員との情報交換をすることができた。

VI 行事関係

月	内 容	月	内 容
4月	・フラワーフェスタ	10月	・ミニ運動会 ・日帰り旅行 ・ラーメン実演(風来軒)
5月	・焼肉会 ・感謝の集い	11月	・日帰り旅行 ・お寿司実演
6月	・風船バレー大会 ・お好み焼き会	12月	・クリスマス会 ・おでん屋実演
7月	・焼肉会	1月	・初詣ドライブ ・キッチンカーイベント
8月	・ミニ納涼祭	2月	・おやつバイキング
9月	・バイキング ・キッチンカーイベント	3月	・餃子パーティー ・お花見会

VII 決算状況(別紙決算書参照)

令和6年度 さくら館 事業報告書(案)

I 事業の概要

- 1 生活介護においては、日本財団補助施設の修繕・改造後一年が経過した。医療的ケアの必要な利用者の増加に伴い多職種連携室（スタッフステーション）の充実を図ることができた。
- 2 居宅介護においては、シェアハウスくろーばーに1室増築工事を行い、4名定員を5名定員に増やし、特別支援学校生を卒業後に新規受け入れた。
- 3 令和6年7月に居宅介護が宮崎市指導監査課による実施指導を受検した。サービスの提供の記録の整備について等の指摘事項があり、職員会議やヘルパーミーティングにて報告と指導を行った。
- 4 令和7年3月1日にさくら館設立20周年を迎え、記念式典を薪焼きレストラン THE TERRACE(ザ・テラス)にて全利用者様、ご家族様、ご来賓の方総勢87名の方々にご参加いただいた。
- 5 令和7年3月末で専任の登録ヘルパー2名が退職となった。1名の新規採用を行い、現在、実働9名の登録ヘルパーである。2名が60歳を超えており、人材確保が課題となっている。人手不足解消として、生活介護支援員、看護師、理学療法士、事務員で兼務派遣を整えており年間（平日）で1,200回実施した。これは全体的な割合では51%になる。兼務派遣をすることでシフトのローテーションが維持できている。

II 事業の状況

1 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和6年度		令和5年度	令和4年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用定員	20名	20名	20名	20名
登録利用者数	36名	36名	37名	38名
開所日数	256日	261日	263日	241日
一日平均利用者数	23.8名	24.0名	22.4名	24.6名
利用者延べ人数	6,100名	6,271名	5,900名	5,916名
介護給付費収入	108,000,000円	125,025,290円	107,702,210円	104,064,900円

(2) 事業の成果と課題

- ① 退所された方3名（症状悪化により長期療養となった方1名、他施設へ移行された方1名、自宅療養となられた方1名）と、新規契約利用者が4名（他施設より移行された方2名、特別支援学校卒業生2名）であった。営業日数は前年度比2日減であったが、新規契約者を4名受け入れたことによって1日平均の利用者数が増え、年間の利用者延べ人数は371名増の6,271名となった。
- ② 年間19日間の祝日営業(13日)と、土曜営業（6日間）で延べ343名の受け入れが出来た。
- ③ 令和6年度4月よりサービス提供時間を5時間から6時間に延長し個々のニーズに応じ個別支援計画書の見直しを行った。徐々に6時間利用が増え、令和6年10月の時点で、全員が移行することになった。
- ④ 2年目となる5類移行後は、年間計15回の園外活動を実施。外出の機会が増えたことで、喜びの声が多く聞かれた。
- ⑤ 新規利用者の獲得については、特別支援学校の実習や見学などの受け入れを積極的に行った。医療行為（経管栄養、インスリン、胃ろう、褥瘡処置、与薬）が多くなっている事から、計4名の看護師で、医療的ケアの充実を図る体制を整えた。
- ⑥ 新規利用者受入れに伴い、送迎用と環境整備として車両を3台（セレナ、クリッパー、軽トラ）入替えした。また、送迎については、今年度も車両事故0を達成した。（6年継続）
- ⑦ オフィス環境の整備では、電子モニターを導入し事業所内での会議や日中活動で活用することができた。
- ⑧ 6つの委員会（サービス向上・虐待防止・医療連携・給食・送迎・身体拘束）の定期的な会議や報告などで、サービスの向上や事故防止に努めた。
- ⑨ 利用者の個々のニーズに応じて、宿泊を伴う小人数での旅行（東京、大阪）を実施した。ご本人とご家族から思い出深い旅行となったと喜びの声をいただいた。

2 居宅介護事業

(1) 事業の実績

【居宅介護】

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
登録利用者数	12名	13名	15名
介護給付費収入	124,115,020円	102,643,550円	111,679,330円

【重度訪問介護】

	令和6年度	令和5年度	令和4年度
登録利用者数	1名	2名	2名
介護給付費収入	11,081,030円	18,804,370円	23,619,470円

【外出介護】

	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
登録利用者数	11 名	12 名	14 名
介護給付費収入	1,801,750 円	2,011,530 円	2,506,854 円

【同行援護】

	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
登録利用者数	1 名	1 名	1 名
介護給付費収入	677,810 円	524,520 円	420,160 円

【訪問介護】

	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度
登録利用者数	2 名	2 名	2 名
介護給付費収入	5,056,060 円	2,912,330 円	3,999,290 円

【居宅介護総合】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	15 名	12 名	14 名	16 名
介護給付費収入	126,000,000 円	142,731,670 円	126,896,300 円	142,225,104 円

(2) 事業の成果と課題

- ① 令和 6 年 11 月にシェアハウスくろーばーとひまわり 2 か所に入浴移乗リフトを導入した。導入後 3 月末までに 9 名の計 196 回使用し、利用者のニーズと介護負担の軽減に努めた。
- ② シェアハウス利用者は計 12 名となり、現在あさがお 1 室空きの状態である。
- ③ シェアハウス利用者間の対人関係は良好で、退去者は 0 名であった。又、特別支援学校の PTA の方などの見学も多く含め、シェアハウスのニーズは高まっている。
- ④ ヘルパーミーティングやシェアハウス支援者会議を 12 回/年 定期的に行い、臨時会議を 1 回実施した。積極的に SNS 等も取り入れ、タイムリーな情報の発信、受信、情報の共有に努めた。
- ⑤ シェアハウスの利用者の方の中にはインスリン注射の対応が必須で、今後も、かかりつけ医や訪問看護との連携を密に行っていきたい。
- ⑥ 防犯や今までの事故をモニタリングし屋内外の防犯カメラの移設を行った。

Ⅲ 感染症対策

- 1 令和 6 年 7 月に新型コロナ、12 月に新型コロナ、インフルエンザによって感染者が発生したが、スタッフステーションを整備したことで体調不良者発生時や感染毎に隔離等を行うことができた。また、インフルエンザ感染症対策としてタミフル薬 100 錠備蓄を行い蔓延防止に成功した。
- 2 インフルエンザワクチン接種については、嘱託医より希望する利用者、職員に対し 11 月に接種を実施した。

- 3 感染症研修としては、防災担当者に看護師が加わり、2月に手洗い、うがいの重要性と日頃からの感染予防についての講話を交えながら実演を行った。

IV 非常災害対策

防火管理者を中心に、飛鳥防災システム（有）からのご協力を得ながら、火災、風水害を想定した避難訓練及び研修を実施した。3月には宮崎市消防局南消防署中部出張所と消防士による起震車体験を利用者、ヘルパー、職員と共に自身の類似体験を通して、日ごろからの防災意識を高めることができ、いざというときに命を守る行動ができるように意識づけすることができた。

BCP（業務継続計画）については、CloudBCP（株）との契約により、法人内全ての事業所においてシステムを導入したことで緊急時の対応や安否確認など統一化が図れた。今後、このシステムを有効活用しながら研修内でも生かしていきたい。また、備蓄庫を整備し災害時の備えや機器の整理を行った。

V 年間報告一覧表

- 1 行事・イベント関係
- 2 防災訓練関係
- 3 職員研修関係

令和6年度 さくら館行事・イベント関係

4月4日	花見（文化公園、小雨の為にオン）	10月18日	運動会
5月11日	感謝の集い	11月12日 11月9日・23日	日南ひなたの宿 土曜営業（市制100周年イベント）
6月12日	ラウンドワンスタジアム 宮崎店	12月14日・28日 12月20日	土曜営業 忘年会
7月19日	青島ボタニックガーデン周辺	R7.1月6日 1月7日	初詣（江田神社） 初詣（八幡神社）
8月22日	エコクリーン宮崎	2月26日	石崎の杜温泉
9月11日	まるみ農園	3月3日 3月28日	20周年記念イベント 西都花まつり

令和6年度 防災訓練関係

4月16日	火災発生による避難訓練 (飛鳥防災)	10月10日	地震災害のビデオ鑑賞
5月16日	CloudBCP(業務継続計画) システムの説明、感染症対 策についての動画鑑賞	11月15日	地震後の津波を想定し古墳公 園、生目の杜運動公園へ避難訓 練
6月6日	地震災害の動画鑑賞	12月23日	南海トラフ地震を想定してのビ デオ鑑賞と備蓄について、防災 食体験
7月16日	救命処置(南消防署中部出 張所より)	1月23日	地震発生時のビデオ鑑賞と津波 講話
8月15日	風水害(ハザードマップ、 避難場所)動画鑑賞	2月20日	警報装置の操作方法(飛鳥防 災)
9月4日	避難訓練(飛鳥防災)	3月4日	起震車(南消防署中部出張所よ り)

令和6年度 研修受講状況

5月23, 24日	福祉職員スタートアップ研修(阿部)
9月13日	
1月15日	
6月28日	チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編(住野)
7月23日	交通安全運転管理者講習(本崎)
9月10日	福祉の基礎知識習得研修(長友)
10月1, 2日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 中堅職員コース3(相馬)
10月29, 30日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 中堅職員コース4(勘米良)
11月7, 8日	福祉職員キャリアパス対応生涯研修過程 初任者コース1.2(塩月)
11月20日	障がい者支援のためのコミュニケーション研修(日高)
1月29日	チーム力を高めるコミュニケーション研修 初任者編2(岡本)

令和6年度 ひらり・天領の杜 事業報告書（案）

I 事業の概要

- 1 念願であった地域の方々を迎えた、夏祭りを実施することが出来た。あいにくの空模様での開催ではあったが、多くの地域の方々に来場していただき大盛況のうち収めることが出来た。
- 2 旧綾外科時から使用されていたエレベーターの経年劣化に伴いリニューアル工事を行った。停電時など復旧に時間を要すことや、操作盤が高いところにあり1人での行き来が出来ないことなどあったが、庫内の操作盤も新しくなり、車いすの方も1人で行き来が出来るようになった。
- 3 エレベーター工事に伴い、3日間のエレベーター停止の期間があったため、急な計画ではあったが、1泊2日で志布志旅行を実施した。約6年ぶりの利用者旅行であったが、25名が参加され、事故なく日程を終えることが出来た。
- 4 9月4日に訪問介護事業所ひらりが宮崎県指導監査・援護課による指導監査を受検した。改善内容として、勤務表において、日々の勤務時間、職務の内容、常勤・非常勤の別が明確にされていないとの指摘があり、様式を変更し必要項目を記載し勤務体制を明確にすることと改善報告を行った。

II 事業の状況

1 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和6年度目標	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
利用者定員	20名	20名	20名	20名
登録利用者数	33名	30名	30名	27名
開所日数	267日	264日	267日	256日
一日平均利用者数	20名	21.6名	20.5名	16.3名
利用者延べ人数	5,400名	5,733名	5,462名	4,177名
介護給付費収入 (利用者負担含)	86,000,000円	90,118,490円	83,961,820円	65,163,610円

(2) 事業成果と課題

- ① 介護給付費収入は615万円の増収であった。新規利用者は、目標であった3名を受け入れることが出来たが、3名が退所となった。5年度実績より開所日数が3日減り、平均利用者数は1.1名、延べ人数が271名と上回ることが出来た。引き続き利用継続と相談支援事業所との連携を図り、新規利用者の獲得に努めていきたい。
- ② 6年ぶりに利用者旅行を実施することが出来た。志布志大黒に宿泊し、夜は忘年会を行った。翌日はイルカランド行き、楽しまれた。25名の利用者が参加され、事故なく1泊2日の日程を終えることが出来た。
- ③ パン工房の使用については、月に1度メニューに取り入れ、出来立てのパンを提供することが出来た。生産活動には至らなかったが、利用者の方と日中活動にてパン作りや料理教室

等でパン工房を使用する機会を増やしていきたい。

- ④ 夏祭りを実施したことで、地域の方と触れ合うことが出来、近隣の幼稚園の園児や施設の入居者の方が来られることもあり、ハロウィンの日には園児の皆さんが駐車場にてダンスを披露してくださった。移転して2年が経過したが、ひらりのことを知る機会を増やし、地域の皆さまとの繋がりを深めていきたい。

2 居宅介護等事業

(1) 事業実績

居宅介護

	令和6年度目標	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
登録利用者数	—	15名	12名	11名
介護給付費収入(利用者負担含む)	106,800,000円	125,116,890円	99,200,560円	91,931,720円

訪問介護

	令和6年度目標	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
登録利用者数	—	7名	8名	10名
介護給付費収入(利用者負担含む)	19,200,000円	17,842,735円	17,282,835円	21,462,360円

外出介護

	令和6年度目標	令和6年度実績	令和5年度実績	令和4年度実績
登録利用者数	—	15名	13名	13名
介護給付費収入(利用者負担含む)	—	3,596,900円	2,876,390円	3,082,500円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護については、数値目標を達成することができ、2,590万円の増収となった。
- ② 訪問介護については、退所者が3名(ともしび)おられた。3部屋の空床期間も長く、給付費収入は、前年度実績を上回ったが、目標達成することが出来なかった。
- ③ 外出介護については登録利用者数が増えたことにより、前年度実績を上回ることが出来た。
- ④ 新規ヘルパーは2名の採用があったが、夜勤ヘルパーの退職により職員が週4日の夜勤に入ることとなり、日中の職員が不足する日も多くみられ、早急に夜勤ヘルパーの確保をしていきたい。引き続き兼務職員による派遣にて利用者支援を行っていく。
- ⑤ ヘルパーの高齢化も進み、登録されている半数の方が65歳以上となっている。支援の偏りも出てきており、今後も兼務職員の負担が大きくなっていくことが懸念される。

3 福祉ホーム（天領の杜・喜楽家）

（1）事業成果と課題

- ① 喜楽家の1室が長期間空いていたが12月に入居され満床となったが、天領の杜では12月末に1名退去となった。
- ② 入院者は3名おられ、肺炎が1名、マイコプラズマ肺炎が1名、食道裂孔ヘルニアが1名であった。退院後の食事形態の変更もあり、ヘルパー・職員、通所事業所職員と連携を図りながら対応した。
- ③ 課題として、通所事業所を利用されていない入居者に対し、ともしび職員対応で日中の支援を行っているが、入浴介助など男性2名体制での支援のため、職員体制を整えるのが難しくなっている。

4 有料老人ホーム（みんなの家ともしび）

（1）事業成果と課題

- ① 1月に1名の看取りを行った。家族、訪問看護、医師、ケアマネ、職員と連携を図り最期までともしびにて過ごしていただいた。
- ② 5月に満床となったが、8月、1月、2月に退去者がおり3室の空床が続いた。3月に1名入居された。
- ③ 6月に職員より新型コロナウイルスの感染確認から入居者3名、職員4名に感染が確認された。日頃のからの消毒の徹底を見直し、感染予防に努めた。
- ④ 敬老会やクリスマス会を実施し、利用者間の交流も出来た。今後もレクリエーション活動を計画していきたい。

Ⅲ 感染症対策

- 1 外部講師による感染症対策の研修を実施し、職員・ヘルパーに周知を行った。
- 2 感染症関連では、年間を通して職員・ヘルパーが14名、利用者6名の感染が確認された。9名は家庭内感染によるもの、5名は施設内での感染であった。

Ⅳ 非常災害対策

- 1 台風10号の避難の際は、ホームの入居者20名と西都市の単身世帯の生活介護利用者2名、綾町のご夫婦の受け入れを行った。避難した翌日に本庄川の氾濫警報レベル4となり、ホームの周りの用水路も溢れていたため、2泊することとなった。翌日より通常営業とした。
- 2 非常食の期限切れの飲料水、食品の入れ替えを行った。

V 職員・ヘルパー研修関係

4月	マナーとコミュニケーション	10月	
5月	移動・移乗技術研修	11月	緊急時の対応（全体） 利用者主体支援研修 リスクマネジメント研修 業務改善の進め方研修 虐待防止と身体拘束
6月	ハラスメント研修 虐待防止研修 プライバシー保護と法令順守	12月	
7月	感染症予防と発生時の対処方法（全体） 看取りケア～尊厳と生活支援～ 課題解決力向上研修 アンダーマネジメント研修	1月	高齢者に多い皮膚トラブル 摂食嚥下障害のリスクを減らそう サービス管理責任者更新研修
8月	看取りケア リスクマネジメント研修 障がい者虐待防止・利用者主体ケア（全体）	2月	介護現場のハラスメントゼロへ
9月	介護現場での不適切ケアとは	3月	BCP研修 組織を守るリスクマネジメント

VI 行事関係

4月	花見ドライブ 青島ボタニックガーデン	10月	運動会（てるはドーム） 酒泉の杜 AED操作及び心肺蘇生法講習会
5月	アミュプラザ 総合防災訓練	11月	高千穂牧場 総合防災訓練
6月	イオン 防災訓練	12月	利用者旅行（志布志大黒） クリスマス会（ともしび）
7月	夏祭り	1月	都農神社（道の駅つの）
8月	消防用設備点検	2月	雛山散策 ソフトバンクキャンプ見学
9月	西都原考古学博物館・パオ アニマルセラピー 敬老会（ともしび）	3月	イオン 綾散策ランチ

VII 決算状況（別添決算書参照）

令和6年度 相談サポートまほろば事業報告書（案）

I 事業の概要

- 1 利用者数前年度対比12名増の利用者を確保することができた。
- 2 障がい児の相談が基幹センターである宮崎市総合発達支援センター「おおぞら」や宮崎市障がい者総合サポートセンターからの依頼により、令和6年度は新規障害者契約数15名、新規障害児7名の合計22名の新規利用者獲得ができた。
- 3 利用者満足度の向上と、相談支援への満足度を確保することができるよう、全利用者の計画書に「相談支援」の支援項目を計画更新時に順次加え、より良いサービス等利用計画書を作成することができた。

II 事業の状況

(1)事業実績

	令和6年度 目標値	令和6年度 実績値	令和5年度 実績値	令和4年度 実績値
登録者人数	216名	205名	193名	177名
計画作成件数	195件	180名	175件	166件
モニタリング件数	495件	430件	419件	477件
サービス提供時モニタリング件数	230件	180件	146件	269件
給付費	11,766,000円	11,618,942円	10,280,493円	9,064,380円

(2)事業成果と課題

- ①登録者数に比例して計画作成数、モニタリング件数、サービス提供時モニタリング件数は目標値に届かなかったが、各種研修を相談員が受講し、行動障害者支援体制Ⅰ・要医療児者支援体制Ⅰ・精神障害者支援体制Ⅰを整えることができた。また、相談員の体制を整え令和7年1月より相談支援機能強化体制をⅢからⅡにすることができた。
- ②宮崎市避難行動要支援者個別避難計画作成と並行して、障がい者独居世帯など支援の必要な世帯については、サービス等利用計画の中に災害時の対応について記載し、関係機関にも周知を図り協力・連絡体制を構築したい。

Ⅲ 感染対策

相談支援事業は、他の事業所や個人宅を訪問して行う事業であるので、感染対策には万全を期して行っていく必要がある。今後も法人事務局が奨励する対応を適切に遵守し感染対策を行う。

Ⅳ 非常災害対策

相談支援事業所の独自の避難訓練等の実施はなく、地域支援局が実施する避難訓練や人命救助訓練に参加している。

Ⅴ 職員研修

宮崎市障がい者基幹相談支援センターや、自立支援協議会の各部会が開催する各種研修会へ参加している。

Ⅵ 自立生活援助事業について

1名の利用者への支援を継続している。今後も利用者が地域で安心して自立した生活ができるように支援を継続していきたい。

令和 6 年度地域支援局事業報告書（案）

I 事業の概要

- 1 新施設での営業開始から 1 年間、環境面での問題が起きることなく過ごすことが出来た。当初は不慣れな場面も多く見られたが、新施設での環境にも慣れた様子が見られている。
- 2 「ケアとスポーツの共生」にて開始した“リラク de フィットネス”だが、外部講師による週 2 回のリハビリを 1 年間通して実施することが出来た。当初、新しい取り組みにおいては、利用者、職員共に慣れない活動であったが、継続していくことで利用者の筋力アップに繋がった。
- 3 リハビリ（フレイル）の拡大に伴い、身体の評価機器を導入することで利用者の身体機能を数値化することで利用者の身体機能向上を確認することが出来た。
- 4 宮崎県教育委員会の依頼により宮崎県立宮崎大宮高等学校の女子生徒 1 名の修学旅行支援を行った。女性職員 2 名を派遣、3 泊 4 日の修学旅行中は自主研修、都内見学など他の生徒と一緒に安心安全に行動することができ、本人やその家族、学校関係者の方々に大変喜んでもらった。

II 事業の状況

1 生活介護、地域密着型通所介護

(1) 事業実績

【生活介護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	20 名	20 名	20 名	20 名
登録利用者数	32 名	37 名	33 名	28 名
開所日数	267 日	266 日	270 日	265 日
一日平均利用者数	19.8 名	21.5 名	18.5 名	18.4 名
利用者延べ人数	5,300 名	5,740 名	4,990 名	4,885 名
介護給付費収入	83,000,000 円	90,277,115 円	79,652,028 円	77,465,917 円

【地域密着型通所介護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
利用者定員	10 名	10 名	10 名	10 名
登録利用者数	5 名	9 名	5 名	8 名
開所日数		258 日	257 日	258 日
一日平均利用者数	4.0 名	4.6 名	4.6 名	6.1 名
利用者延べ人数	1,000 名	1,182 名	1,200 名	1,598 名
介護給付費収入	5,400,000 円	7,148,340 円	6,751,053 円	8,991,620 円

(2) 事業成果と課題

- ① 生活介護事業は前年度の数值より大幅に上回り目標値を達成することが出来た。新利用契約目標 5 名に対して、9 名の新規利用者との契約を行った。利用者が増えたことで延べ利用者数も上半期は安定して目標値を達成していたが、1 年を通してずっと入院者がいた。また、冬場～春先にかけて体調不良や病院受診、入院者が続出し数值が落ち込んだ。次年度も新規利用者の獲得を継続していく。
退所者 3 名で、1 名は在宅生活が困難になり翼（入所）へ移行、1 名は東病院の療養型に移行、1 名は利用実績がほとんどなかったため契約終了となった。
- ② 地域密着型通所介護では、生活介護で 65 歳を迎えたことから介護保険サービスに移行になった方が 2 名、以前通所を利用されていた方が再度利用したいとのことで 2 名の計 4 名の方と契約を行ったことから 1 月以降は利用者が増加した。退所者はいなかった。

2. 居宅介護、訪問介護、BE・FREE、Be Fine

(1) 事業実績

【居宅介護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	18 名	18 名	20 名	19 名
介護給付費収入	132,000,000 円	134,385,421 円	114,820,110 円	96,844,340 円

【重度訪問介護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	1 名	1 名	4 名	4 名
介護給付費収入	11,000,000 円	1,307,420 円	26,863,730 円	33,765,850 円

【同行援護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	1 名	1 名	1 名	1 名
介護給付費収入	1,000,000 円	144,730 円	1,006,800 円	1,098,770 円

【外出介護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	17 名	15 名	15 名	17 名
介護給付費収入	2,000,000 円	2,088,470 円	2,247,130 円	1,518,510 円

【訪問介護】

	令和 6 年度		令和 5 年度	令和 4 年度
	目標値	実績値	実績値	実績値
登録利用者数	10 名	9 名	10 名	11 名
介護給付費収入	18,000,000 円	17,812,130 円	18,082,134 円	19,693,377 円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護事業全体では、目標値 164,000,000 円に対し、155,738,171 円と約 8,260,000 円のマイナスで目標値をクリアすることができなかった。要因は年度当初に重度訪問介護と同行援護の利用者が契約終了となり、その後の利用者調整に時間を要したためである。
- ② BE・FREE は空室であった 2 部屋に、5 月、10 月に新たに女性が入居された。Be Fine は 5 月に男性 1 名が療養病棟に入院され退去となったが、10 月に、新たに男性 1 名が入居された。
- ③ Be Fine の外壁老朽化に伴い 3 ヶ月かけて改修工事を実施した。塗り替えや修繕をしたことで、居住されている利用者の皆様に喜んでもらった。

Ⅲ 感染症対策

新型コロナウイルス感染者は年間で利用者・職員合わせて 10 名未満であった。感染拡大もなくしっかりと感染対策を行うことができた。毎日の消毒を徹底することが影響しているかは不明だが、感染拡大が見られなかったことから消毒の重要性を確認することができた。今後も継続して、施設内の消毒、個々の手洗いや手指消毒の徹底を継続していく。

Ⅳ 非常災害対策

防災計画や BCP の見直しを定期的実施した。備品の管理については、当初備蓄庫にて管理していたが、防災備品については夏に地震が発生した際に見直しを行い、いつでも持ち出しが可能になるように通所倉庫へ移動した。また、BCP を発動させ訓練を行ってきたが、システムエラーによりスムーズに返信できない職員が多数いたことが問題として挙げられた。

9 月には入所と合同で、地域の方々と一緒に避難訓練を実施することができた。協力して頂いた地域の方々とは事前に調整しながら計画を進めることができ、終了後には助言を頂くことができた。

V 職員研修関係

4月	新人職員研修、虐待防止研修 防災研修	10月	介護研修（入浴介助）
5月	接遇研修	11月	虐待防止研修、感染症研修
6月	救命救急講習会、安全運転講習	12月	
7月	防犯研修	1月	ストレスケア研修
8月		2月	高次脳機能障害研修 介護研修（オムツの当て方）
9月	総合防災訓練	3月	

※通年：宮崎県社会福祉協議会主催研修 リハビリ研修（計22回）

VI 行事関係

4月	花見（雨天のため車窓ドライブ）	10月	ボウリング（ROUND1） アニマルセラピー
5月	買い物（イオン）、焼肉会 アニマルセラピー	11月	宮崎フェニックス自然動物園
6月	宮崎科学技術館	12月	クリスマス会 イルミネーションドライブ
7月	プチ納涼祭、さくら喫茶カフェ 焼肉会	1月	初詣ドライブ
8月	そうめん流し、夕涼み会	2月	ソフトバンクキャンプ（雨天中止）
9月	買い物（イオン） キッチンカーイベント（クレープ）	3月	フローランテ宮崎

VII 活動状況

VII 決算状況（別紙決算書参照）